



北師会館の資料から 純剛の精神とは

北師会館館長

名古屋 英 男

昭和四十六年卒

北師会館には、数多くの資料が残されています。その数多い資料の中に「師友」第八十五号（昭和十年三月発行）なる冊子を見つけました。発行は、『札幌師範学校北海師友会』となっています。北師同窓会とは、また別の組織のようです。目次を見ていて「純剛の精神」というタイトルを見つけ、読んでみました。寄稿は、当時の札幌師範学校の山本梅雄先生です。以下にその一部を紹介します。

「本校に学ぶ生徒諸子は、入学すると間もなく純剛の精神という事を誰が言うとなしに聞かされ、純剛の大旗のもとに生氣に満ちた応援歌を歌うであろう。特に近頃は、この純剛精神を理想として、日々の修養向上を励む者が多くなって来た様で誠に喜ばしいことである。しかし、中には純剛の精神を尊重せよと、ただ言葉に表すばかりで、少しもその真髄に触れぬ者や、却ってその精神に反した行動をする者が時々見受けられるのは、甚だ遺憾な事である。これは畢竟純剛の意味を知らない為である。以下少しく純剛の精神について述べてみたいと思う。

純剛の精神とは何ぞ。一言にこれを表せば、清く明るく正しく強き心であり、本校創立以来一貫した公明正大、質実剛健の校風である。この至純至剛なる校風は、はじめは何もこれを表す適当な言葉

を持たなかった。ただ、精神的に育まれて年とともに力強いものとなって来たのである。」

「丁度今から二十数年前（※大正五年頃）に本校に学んだ生徒に大和資雄という秀才があった。その当時毎年春に農大（今の北大）の運動会に於いて全道中等学校選手の六百米の徒競走が行われた。土曜日の放課後全員が応援に出て大きなスタンドに各校の色とりどりの応援旗をふりつつ、天にも届けとばかりに、応援歌を歌ったものである。

ある春のこと、その歌詞歌調についても少し良いものがほしいという声が出て、新しい応援歌の歌詞を作ったのが前述の大和資雄君であった。今日生徒諸子が朝夕口ずさむ純剛歌は、実にこの時のものであり、一般応援歌としては実に永い間続いて来たものと言わねばならぬ。さてその歌の中の『純剛正気の風受けて』の一句が生徒諸子の日頃理想とする、清く明るく正しき強き心に合致したのである。自分もこれを歌った一人であるが、歌詞はすすんであの一々に至れば、思わず精神が緊張し崇高偉大なる何物かに心身を圧迫された様な感じがした。」（中略）

「純剛の精神の尊さ、そして永久に伝わるべき所以は、或いは学校にて先生が案を練って作られたものでもない、生徒が寄り合ってお互いにこうしようと相談して出来たものでもない、又卒業生が後進を導くために特に選んだものでもない。それは、誰言うとなしに北師の庭に自然に発したものである。大和君が純剛の熟語を用いた時に、これ程迄に用いられるとは気付かなかったであろうし、これによって幾多の後進に対する指導の標語としようとは考えられなかったことは勿論である。」以上を昭和十年の冊子から引用しました。